【本ガイドラインについて】

本ガイドラインは、WEB制作をブルースター株式会社が発注する際に制作上でのガイドラインを定めたものです。本ガイドラインに定めた基準が適さない場合には早急に担当者までご連絡をください。但し事前に合意していた基準外の事象に対してはその必要はございません。

【階層構造について】

ホームページを作成する際には、TOPページから豊富な商品や情報が掲載されているいわゆる詳細ページへ直接リンクを貼るのではなくカテゴリ毎の中間ページを生成し、その一覧を経由して詳細ページを閲覧するように導線を設計してください。

【WEB制作上の表現すべき閲覧端末】

昨今においてはパソコンだけでなく様々な装置やブラウザによってホームページが閲覧される環境にあります。このためデジタルデバイドを避ける観点と表示が正常に行われない失望を避けるために以下のデバイスによる検証を必ず納品前に実施くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

**パソコン系**

* Windowsパソコン: Internet Explorer　9と11(最新版)、Firefox最新版、Google Chrome最新版
* Macintoshパソコン:Safari最新版、Google Chrome最新版

**スマートフォン系**

スマートフォンにおいては縦表示と横表示の両方で表示確認をください。

* iPhone : 標準搭載ブラウザ
* iPad mini: 標準搭載ブラウザ　（非Retina display系）
* New iPad:標準搭載ブラウザ (Retina Display)
* Android:標準搭載ブラウザ　(機種としてはGalaxy, htc等Tier1メーカ５社のどれか)
* Androidタブレット：1280\*900の10.1インチ及び低解像度の７インチ

**案件により指定されるデバイス**

* フィーチャーフォン (i/ezの端末で動作確認)　標準搭載ブラウザ
* 東芝Regza、ソニーBRAVIA等インターネット表示機能のあるTV
* Playstation3、PSP、DS-i、Wii等のゲーム機

【各デバイスからのアクセスを考慮したHTML制作方法】

スマートフォン等の小型デバイスにおいてナビゲーションメニューを全てのページに埋め込むとみづらくなってしまいます。このため、サイト全体を表すメニューは、メニューボタンに格納し、そこを押すことによってメニューが現れるようにします。メニューアイコンは、横3本線アイコンを利用します。TOPへは、煙突の着いた一軒家のアイコンを利用します。１つ上の階層の情報へのバナーはページ上部および下部に配置し、回遊性を高めてください。



* Responsive web design  
  CSS3のMediaQuriesを利用する。各デバイス用には、１つのHTMLファイルに対してCSS3を用いて各デバイスに最適化された表示を行う。（１つのURL）  
  ホームページを構成するHTMLは各デバイス向け作成せず、１つのHTMLファイルとし、H1タグやスタイル定義に基づき、各デバイス用のCSSにてそれぞれのデバイスやブラウザに適したCSSにて画面表示を行う仕様としてください。  
  IEでCSS3を利用するスクリプトは以下のとおりですのでHEADにて指定ください。

<!--[if lt IE 9]>  
<script src="http://css3-mediaqueries-js.googlecode.com/svn/trunk/css3-mediaqueries.js"></script>  
<![endif]-->  
また、media only screenは640pxを推奨します（Google推奨値）  
media only screen and (max-width: 640px) {...}

また、もしCSS3を利用したサイト作成に詳しくない場合、各デバイス用のCSSを指定する方法として、.htaccess,JavaScriptなど旧来の手法をご利用になっても結構です。この場合、JavaScriptを利用する場合はhtml本文にデバイスやブラウザ別の振り分けルーチンを記述せず、headタグ内にてcss指定JavaSciptを呼び出すようにしてください。  
例：<script src="js/css.js" type="text/javascript"></script>  
  
CSSを利用できないフィーチャーフォンなどのデバイスに関しては、サブドメインを設置し、そちらに.htaccessを用いてアクセス時に自動的にリダイレクトされる仕様としてください。

Options +FollowSymLinks

RewriteEngine On

RewriteCond %{HTTP\_USER\_AGENT} ^(DoCoMo|KDDI|DDIPOKET|UP\.Browser|J-PHONE|Vodafone|SoftBank|NetFront)

RewriteRule ^$ http://m.blue.co.jp/ [R]

RewriteEngine on

RewriteCond %{HTTP\_HOST} ^(blue\.co\.jp)(:80)?

RewriteRule ^(.\*) http://www.blue.co.jp/$1 [R=301,L]

ErrorDocument 404 http://www.blue.co.jp/

【サイト制作する上での注意点、Head情報】

文字コードは、UTF-8を利用しWindows固有文字などを扱わないよう考慮ください。

<meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=utf-8">

<meta http-equiv="content-language" content="jp" >

スマートフォンなどで見易くなるようviewportのmetaタグを指定ください。

例：<meta name="viewport" content="width=device-width; initial-scale=1.0" />

検索エンジンに対してインデックスをするよう指定する以下のタグを配置ください。

<meta name="robots" content="INDEX,FOLLOW" >

<meta name="rating" content="general" >

サイトアイコンを別途ご連絡いたしますので、そちらのイメージを適切なディレクトリに格納し、以下のタグにて相対パスにて指定ください。

<link rel="shortcut icon"href="favicon.ico"/>

【存在しないページ】 404

存在しないページにアクセスしてきた場合には、.htaccessにより「ページが存在しない」というページを表示するか、ＴＯＰページにアクセスする仕様としてください。

【検索エンジンフレンドリー、Ｗ３Ｃ準拠について】

顧客の目を惹くグラフィクスを実現しつつも、Ｗ３Ｃに準拠した検索エンジンフレンドリーな設計を忘れないことが重要であると考えます。このため以下の点にご注意ください。

* Adobe FLASH/FLVの利用禁止　（JavaScriptやHTML5にて表現を実現ください）
* 画像で文字を表現する際や写真には必ずそれを表すALTタグに文字を設定ください。
* XMLサイトマップを作成してください。Lastmodタグは忘れずに日付を指定ください。  
  Priorityタグはサイトの階層ディレクトリを明確に表してください。
* Robots.txtを配置し、以下を記述ください。SitemapsにはXMLサイトマップ格納URLを記述します。  
  User-Agent: \*  
  Sitemap: http://www.example.com/sitemap.xml
* 各ページを構成するhead内のTitle タグおよびdescriptionタグの指示を弊社マーケティング担当者より受けくださいますよう、お願い申し上げます。全ページ同一でなく、ページ毎に異なりますのでご注意ください。

【ボディ部制作について】

* 相対パス指定  
  A,imgタグ等においてファイル指定をする際には、URL名などを含めず相対パスにて指定ください。 例：<img src=”../../logo.jpg” alt=”企業ロゴ”>
* index.htmlの指定について  
  index.html以外のページからindex.htmlを指定する際には、index.htmlを含めない形でのファイル指定をお願いいたします。例:<a href=”../../”>  
  /とindex.htmlの両方をサイト上から指定すると検索エンジンは２つの同一HTMLが存在すると誤解してしまうため、それを回避する必要があります。
* 画像へのALTタグ設定  
  利用者へのノーマライゼーション(JIS X8341)および画像検索からのトラフィック対応のため全画像にALTタグを設定ください。特に画像中にキャッチコピーなどの文章が含まれている場合は、その全ての文章をALTタグ中へ設定ください。
* ファイルサイズは300KBまで

１つのページを表示する際に利用される総ファイル(HTML+CSS+構成画像)の総サイズを300KB以下に納めてください。3Gスマートフォンやタブレットを考慮してのことと、SEO対策の両面から必要となります。以下の手法を用いて完成したページのサイズが300KBを超えている場合にはスリム化を図ってください。

・HTMLタグに不必要な記述がないか確認をしてください。  
（特にHTMLエディタで生成すると無駄なコードが生成されることがあります）

・表現に問題がないレベルまでJPEG圧縮比率を高めます。

* ソーシャルメディアのボタン  
  全ページの画面右上あたりにFacebook,twitter,Google+,linkedInの「いいね！」ボタンを配置ください。
* Tableタグについては全面的に使用しないようにお願いいたします。
* 色彩について  
  JIS X 8341 を考慮して色彩の採用をお願いいたします。
* アニメーションメニューの禁止  
  メニュー部にマスウオーバーをした時のみにサブメニューが現れ、出現した際にのみコンテンツへのリンクがクリックできるプルダウンメニューはタブレット利用者の方が利用できないため、タップをした際にメニューが表示されつづける仕様としてください。
* 原則オプションプラグイン利用の禁止  
  PDFを除きブラウザへのプラグインが必要となるものは利用しないでください。  
  Java,3D表示系,OpenGL等
* 動画フォーマット  
  スマートフォンでのアクセスに関してはYouTubeに事前アップロードしたものへのリンクを貼り付けてください。（クリックでYouTubeプレーヤが起動します）  
  パソコン用では動画フォーマットは標準(IE,Firefox,Safari他)ではYouTubeの動画をその画面上で表示するか、画面いっぱいに大きくポップアップ表示し再生するようなScriptにて実現ください。

【組織のロゴについての schema.org マークアップ】

企業ホームページや商品サイトでは、その企業ロゴを検索エンジンへ認識させるタグを配置ください。Google では組織のロゴについての schema.org マークアップのサポートを開始いたしました。このマークアップによって、組織を象徴する画像とサイトを結び付けることができます。ウェブマスターの皆様は、Google 検索結果で組織のロゴとして使用される画像を指定することができます。

<div itemscope itemtype="http://schema.org/Organization">

<a itemprop="url" href="http://www.example.com/">Home</a>

<img itemprop="logo" src="http://www.example.com/logo.png" />

</div>

この例では、「この画像が、（マークアップにも含まれている）ホームページのロゴ画像として指定されており、可能ならば、この画像を Google 検索結果で使用できるものである」ということを Google に示しています。このようなマークアップは、たとえば Google がユーザーのクエリに基づいて右側にナレッジ グラフを表示するときに、他よりも優先してこの画像を表示してほしいという、Google アルゴリズムへの強いシグナルとなります。

【マーケティングタグ設置のお願い】

弊社の担当者よりマーケティング用の以下のタグやファイルをご連絡いたしますので、そちらを指示された場所へ貼り付けをお願いいたします。

●Googleサイト管理者、Bingサイト管理者認識ファイル

google9f579ff541fbc849.html(このような感じ)、LiveSearchSiteAuth.xml

●Google Analyticsタグ

　Headの最終行である</Head>の直前に配置ください。

●Yahooリスティング広告

　bodyの最終行である</body>の直前に配置ください。

【Google社からのCSSを利用してのレスポンシブウェッブデザイン推奨利用方法】

ブレークポイントは３つ(PC用, 768pxのタブレット,それ以下のスマホ)用意し、最適化してください。

コンテナ要素には width を指定するのではなく、代わりに max-width を指定。同じく height の代わりに min-height を使う。こうすることで、大きめのフォントや複数行に渡るテキストの場合でも、コンテナからはみ出すことがなくなる。固定幅の画像によってリキッド カラムが強制的に広げられた状態になるのを防ぐため、下記の CSS ルールを適用。

img {

max-width: 100%;

}

デフォルトのビューポート幅 (英語) は、画面の実際の物理的なピクセル (英語) の数にかかわらず、初期設定の Android ブラウザでは 800px、iOS では 980px 。 より読みやい縮尺でブラウザにページを表示させるには、 viewport メタ タグを使用する必要がある。

meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1"

モバイル端末の画面解像度は多岐にわたるが、最新のスマートフォン用ブラウザの多くは現在、320px ほどの標準的な evice-width であるとされている。モバイル端末が実際には物理的に 640px の場合、320px 幅の画像は、画面の横幅に合ったサイズに変更され、その過程で倍の数のピクセルを使用。小さい画面ではテキストがより鮮明に見えるのはこのためでもある。標準的なデスクトップのモニターに比べるとピクセルの密度が倍になっている。  
viewport を指定するメタ タグで width = device-width を設定する利点は、ユーザーがスマートフォンやタブレットの向きを変えたときに表示を更新してくれる。これをメディアクエリと組み合わせて用いることで、ユーザーが端末を回転させた時のレイアウトを微調整できる。

@media screen and (min-width:480px) and (max-width:800px) {

/\* ランドスケープモードのスマートフォン、ポートレートモードのタブレットまたはウィンドウ幅の狭いデスクトップ向けのスタイル

\*/

}

@media screen and (max-width:479px) {

/\* ポートレートモードのスマートフォン向けのスタイル \*/

}

サイトの流れや各種端末上での表示に応じて、異なるブレークポイントを使用する必要がある場合もある。また、メディアクエリの orientation を使って、ピクセルで幅などのサイズを指定することなしに特定の向きに対応させることも可能だが、ブラウザが対応している場合 に限る。

@media all and (orientation: landscape) {

/\*ランドスケープモード向けのスタイル \*/

}

@media all and (orientation: portrait) {

/\*ポートレートモード向けのスタイル \*/

}

* パンくずリスト

Googlが認識するプロパティ、 microdata または RDFa のいずれかのマークアップでラベル付けをしてください。

洋服 › ドレス › 緑のドレス

<div itemscope itemtype="http://data-vocabulary.org/Breadcrumb">

<a href="http://www.example.com/dresses" itemprop="url">

<span itemprop="title">洋服</span>

</a> ›

</div>

<div itemscope itemtype="http://data-vocabulary.org/Breadcrumb">

<a href="http://www.example.com/dresses/real" itemprop="url">

<span itemprop="title">ドレス</span> </a> ›

</div>

<div itemscope itemtype="http://data-vocabulary.org/Breadcrumb">

<a href="http://www.example.com/clothes/dresses/real/green" itemprop="url">

<span itemprop="title">緑のドレス</span> </a>

</div>

さまざまなデバイスの解像度に対応させる代わりに、比較的広いブレークポイントを設定するという方法を取ることで様々な端末への対応を広げることが可能。1024px を超える画面解像度では、パソコン用へ元々デザインした通りにページを表示。

801px から 1024px の画面解像度では、リキッド レイアウトによって、若干圧縮されたバージョンが表示し、画面解像度が 800px まで下がる場合に限り、主要なコンテンツとはみなされないコンテンツはページの下部へと送るとう考え方。

@media screen and (max-width: 800px) {

/\* この場合のみ適用されるスタイル \*/

}

最後に記述するメディアクエリにはスマートフォンを想定した幅を指定します。

@media screen and (max-width: 479px) {

/\* この場合のみ適用されるスタイル \*/

}